

# 研究紀要

第 33 号

序文	田中 瑩一	1
研究論文		
国語科		
国語科の学習指導における「発表会」活性化の工夫について（その2）—選択国語の実践を通して—	永島 典男	3
社会科		
在留外国人や地域の人々との交流を生かした調査学習—地理的分野「日本の人々の生活」の実践—	長岡 素巳	27
数学科		
一次方程式の指導についての一考察—文章題から立式の指導を通して—	宮本 弘和	49
保健体育科		
一年女子バスケットボールの学習指導—ハーフコートバスケットボールを取り入れて—	藤村 昇	59
英語科		
より豊かな表現活動の指導をめざして—3 Sentence-Speech活動の実践例—	田辺 裕弼	67
特殊教育		
見通しをより確かにするための指導の工夫とその考察	田中 康夫 他	95
音楽科		
ベートーベンの音楽とその教材性についての一考察—第5番交響曲と第9交響曲の鑑賞学習を視点として—	藤原 正博	105
海外研修報告		
平成2年度国立大学学部・附属学校等教官 海外教育事情—視察派遣（B団）に参加して—	河西 尚子	111
—訪問国（ハンガリー・スペイン、アメリカ）の概況と学校訪問—		
平成2年度本校ならびに本校教官の研究活動	研 究 部	123

平成 3 年 6 月

島根大学教育学部附属中学校

## 序

## 文

本集には国語、社会、数学、保健体育、英語、特殊、音楽の七分野の実践研究と海外研修報告一篇を掲載した。

本校が昭和60年に「自ら学ぶ力」の育成を目標に掲げて研究に取り組み始めてから六年を経過した。その間、昭和63年には、中間的な成果をまとめるとともに新たに浮かび上がった課題を確認するために『自ら学ぶ力を育てる学習指導』と題する小著を公刊した。そこで明らかになった新しい課題は、①「自ら学ぶ力」を育てるための有効な教材の開発と効果的な追及場面の位置付けが必要であること、および②「自ら学ぶ力」の評価法を開発することが必要であることの二点であった。以後本校の研究は主としてこの二点に力を注いで今日に至った。ここに収めた七篇の論文は私たちが明らかにしてきた課題に対する答案の一部である。

国語科の永島論文は、国語科でしばしば行われる「発表会」という学習の形態についてとりあげ、従来の指導がとかく発表者の発表の仕方の方にばかり目をむけてきた所にその隘路があったことを指摘し、「聞き手が主体的に発表に加わってゆくような「発表会」の創出を提言している。とくに「発表会」に参加している生徒の発言内容のほか、発言量や雰囲気、つぶやきや授業後の反応などを分析するという方法によって新しい評価の観点を採り出そうとした点などについてご批判をたまわりたい。

社会科の長岡論文は国際化の進展に対応する観点から、自国の文化を他国のそれと対照することを通して発見的に理解させてゆく場面を様々な調査活動のなかに組織しようとした試みである。取り上げた教材は住まいの問題。これを地域に在住する外国人と、地域で住まい作りに当たっている職業人へのインタビューを通して把握させた。生徒の反応のほかインフォーマントである大人の反応にもこの学習の評価のてがかりがあるように思われる。

数学科の宮本論文は多くの生徒に抵抗のある教材とされる、いわゆる「文章題」の問題をとりあげ、思考を導くマニュアルの工夫を提案したものである。マニュアルによって思考を型にはめるのではなく、逆に生徒の、より柔軟な思考を呼び出すことができるということを実証しようとしたのである。これによって数学の

楽しさや美しさがどれだけ生徒の手に実感として残ったか、さらに検証を重ねるために、きたんのないご批判をたまわりたい。

保健体育科の藤村論文はハーフコートバスケットボールを体育の授業に取り入れた実践結果を分析し、その教材としての意義と問題点を検証しようとしたものである。体育科における「自ら学ぶ力」の育成のためにこの教材は中学生を対象としてその適用法がさらに練られてゆくだろう。この報告の提起した資料がなにがしかの貢献を果たすならば幸せである。

英語科の田辺論文は著者が長年にわたって開発をすすめてきた独創的な英語指導法、3 sentence-speech 活動についてその成果を報告し、生徒の作品例を示したものである。中学校における英語教育の一つの到達点を示すものとして研究上の刺激になることを願っている。

特殊教育の田中論文は「自ら学ぶ力」の基本にあるものを本校の養護学級の実態において「やりぬく力」として構造的にとらえなおし、その一要素である「見通し」について取り立てて検討を加えたものである。「一坪菜園」および「三瓶ウオークラリー」の二実践について、指導者の働きかけと生徒の反応との相互関係について実証的に考察した。一般化できるものがどれだけ含まれているか、異なった実態の教室その他の実践者からの助言を切に希望する。

音楽科の藤原論文は日本人によるこれまでのベートーベン受容と、本校生徒の第五交響曲および第九交響曲の受容とを比較検討することを通して、ベートーベンの音楽の教材性を明らかにしようとしたものである。中学生を取り巻く現代の音楽状況との関連を抜きにして古典の教材性ははかれない。ここに描き出された中学生の音楽的感性の一端は、音楽科における自己学習力の養成を考える上で、無視できない情報を与えているように思われる。

以上、掲載論文の概要を略記し、ご批評をお願いする次第である。

平成3年3月

島根大学教育学部付属中学校

校長 田 中 瑩 一

## 平成2年度本校ならびに本校教官の研究活動

### 1. 共同研究

第33回中学校教育研究発表協議会

- (1) 研究主題 「自ら学ぶ力」を育てる学習指導——追求型・選択型の学習の展開と評価——
- (2) 期 日 平成2年11月2日（金）
- (3) 講 演 「主体的な学習」——新学習指導要領をささえるもの——  
島根大学教授 瀬戸 真先生
- (4) 全体発表 「追求型・選択型の学習指導と評価」 研究部長 浜田 裕三
- (5) 公開授業

時	教科	年・組	追求課題・選択テーマ	指 導 者	
校 時	国 語	3-2	いろいろな見方をとり入れて	佐 藤 安 治	
	社 会	2-2	日本人の生活を調べよう(衣食住をとおして)	長 岡 素 巳	
	数 学	1-2	変化と対応-吟味する授業の追求-	宮 本 弘 和	
	理 科	2-3	電流と電圧の関係をさぐる	西 山 成 信	
	音 楽	1-4	「歌う」楽しさを求めて	布 野 浩 志	
	保 体	3-3・4 (女)	自分の体力にあったトレーニング作り	宮 本 夏 子	
	家 庭	1-3	食物(家庭生活)-食品の選択と購入-	久 我 俊 子	
校 時	英 語	3-1	わが町の紹介(パンフレットづくり)	田 辺 裕 弼	
	英 語	1-1	先生方を紹介しよう	平 野 謙 治	
	学 活	2-4	心の変化と性心理(特設)	藤 田 喜 久 子	
校 時	特 殊	養護全学年	グループA「附中食堂」	小 村 の り 子	
			グループB「秋の合宿」	原、田中、加田	
	教 科		講 座 名		指 導 者
	三 年 選 択 教 科	国 語	みんなの国語研究会		永 島 典 男
		社 会	身近な地域の生活をさぐる		錦 織 馨
		数 学	数学のルーツをさぐる		西 田 修
		理 科	自由研究をしよう		高 橋 伸 二
		音 楽	器楽合奏の魅力を探ろう		藤 原 正 博
保 体		球技・レクリエーションスポーツ選択		花 原 良 治	
技 術	食品加工を取り入れた野菜栽培学習		長 澤 郁 夫		

## (6) 分科会

教科	研究協議主題	発表者	司会者	助言者
国語	聞くことを中心として通じあい響き合う学習の創造	寺本 学	川津 啓義 (松江教育センター)	足立 悦男 (島根大) 宮廻 正昭 (古江中)
社会	自ら計画を修正していく力が育つ調査学習の展開	岩田 厄	山崎 裕二 (松江教育事務所)	有馬毅一郎 (島根大) 森山 直人 (島根大)
数学	自ら吟味する生徒が育つ学習の構成	奥村 泰磨	岡 脈悟 (松江市教委)	伊藤 俊彦 (島根大) 富竹 徹 (島根大)
理科	自らの課題を深める力が育つ学習の展開	浜田 裕三	細田 茂樹 (松江教育事務所)	高橋 成和 (島根大) 秦 明德 (島根大)
音楽	自らの意志による発散を促す学習の創造	藤原 正博	田中 義浩 (田井中学校)	大月 玄之 (島根大) 手塚 実 (島根大)
保体	自ら目的意識をもつ学習の構成	藤村 昇	安部 輝洋 (松江教育事務所)	織奥 信男 (島根大) 渡辺 悦男 (島根大)
技家	生活を見つめ直す力が育つ学習の構成	久我 俊子 長澤 郁夫	柳楽 治央 (湖陵中学校)	大國 博昭 (島根大) 塚本 正秋 (島根大)
			中野 吟子 (県教委)	藤江 奏 (島根大) 多々納道子 (島根大)
英語	言語活動を豊かにする選択型学習の創造	田辺 裕弼	嵐 元宏 (県教委)	森山 善美 (島根大) 築道 和明 (島根大)
特殊	自ら見通す力が育つ学習の展開	加田 紀機	横山 康二 (松江一中)	稲浪 正充 (島根大) 西 信高 (島根大)
学級活動	自らをみつめる性教育のとりくみ	藤田喜久子	藤原 満美 (県教委)	福井 一明 (島根大) 喜多村 望 (島根大)

## II 個人研究

### 1. 研究発表(口頭)

- 久我 俊子 「生徒・保護者の実態を踏まえた「家庭生活」の指導」 家庭科教育学会中国地区会(於 山口大学) H2. 8.25
- 浜田 裕三 「中学校理科におけるコンピュータの利用」 日本理科教育学会全国大会(於 島根大学) H2. 8. 3
- 寺本 学 「音読、朗読についての話し合い」 大村はま国語教育の会(於 東京 錦華小学校) H2.11.23 「俳句指導の一試み」 島根大学国語文学会 H2. 8
- 西山 成信 「選択「理科」実践上の諸問題」 日本理科教育学会全国大会(於 島根大学) H2. 8. 3

### 2. 掲載論文

- 久我 俊子 「家庭生活にかかわる教材開発と授業研究－食事と家族－」(家庭科教育学会誌)
- 藤田喜久子 「思春期の病気と健康」 特別活動実践講座 (ニチブン) H3. 3末 予定
- 「健康教育の実践と協力」 養護教諭実践講座 (ニチブン) H3. 3末 予定
- 「教育相談の研究と課題」 (教育実践研究指導センター紀要) H3. 3末 予定
- 寺本 学 「聞く力の育成をめざして」 月刊国語教育 (東京法令出版) H2.12.25
- 「古典の読みと理解について」 教育科学国語教育 (明治図書) H3. 6. 1予定
- 長沢 郁夫 「かんな削りの指導と工夫」 技術教室 (民衆社) H2.12
- 岩田 靖 「身近な地域・松江」 中学校社会科教育実践講座第5巻(教育出版センター) H2. 4
- 「高齢化社会と家族」 " 第11巻( " ) H2. 4
- 「自ら学ぶ力」を育てる学習指導 中等教育資料 (文部省) H2.10
- －問題解決による社会科学習－

研究紀要 第33号

平成3年6月17日 印刷

平成3年6月21日 発行

発行 島根大学教育学部附属中学校

〒690 松江市菅田町167-1

TEL (0852) 23-1421

印刷 柏木印刷有限会社

島根大学教育学部  
国語研究室

松江市西川津町一〇六〇(〒六九〇)  
電話〇八五二一二一七(代)